

贈与が呼び起こす地域性
-オモテとウラの構成による新たなコモンスペースの創造-

22018025 黒田 万滉
指導教員 宮 晶子 教授

贈与	地域性	ふるまい
都市	開発	物々交換

1.序論

現代の都市開発では合理性や効率性が重視され、人の記憶や土着性が軽視されていると感じる。資本主義の影響で物々交換などの人間らしい「ふるまい」が減少し、都市は冷たい印象になっている。本来、これらのふるまいは人と街が温かく繋がる要素であり、今もなお継承される文化である。そこで、地域固有のふるまいを取り入れ、人々の多様な関係性を作ることができれば、都市空間にあたたかさを感じることができるのではないか。都市空間に人の根源的なふるまいが多発し、地域性が再び栄えることができるような計画を提案する。

2.物々交換と贈与

物々交換は現在あまり見られなくなったが、地域によっては未だ存在する生活行為である。物々交換とは、地球からの資源の一部を贈与されることから始まり、今の消費社会における金銭的な取引行為につながる物である。

マンセル・モース著の『贈与論』によると、贈与は物々交換に先行し、経済行為でありつつも人類の経済行為の分母にあたりと唱えている。[1]

故に、贈与は行きすぎた経済合理性を人間的なスケールに戻す、中間的な概念であると考えられるのではないだろうか。

3.贈与と空間

中沢新一著の『純粋な自然の贈与』によると、贈与と売買について、贈与も売買も物を介して人間の間に関係を作るものであると論じている。さらに、贈与は対話の状態をつくるものの、相手に自分の考えや欲望を押し付けたいとされ、贈与の空間には無限の深さがあると述べている。[2]贈与を行う空間について、人間のふるまいによってその物の意味合い、人と人の関係が変化すると考えられる。

3-1. 心理的距離と贈与

前述より、贈与のある空間では対話による価値の決

定が必要不可欠である。物の交換について贈与性がどのように変わるのかを分析し、それらが行われる空間の原理について考察する。

書店のような商業的な空間では、物の価値は主に金銭によって評価され、数値的な価値に変換される(図 1)。フリーマーケットでは物の数値的価値に加え、それを所有していた人との関係性も考慮される(図 2)。自由本棚では、本を置いていく人の人物像や本の内容が余剰的な価値として考慮される(図 3)。このような空間での贈与性は、単なる物のやりとりを超えた人と人のつながりやコミュニケーションの要素がより強調される。物の背後にある人間の存在を感じることで、心理的距離が縮まり贈与性が高まり、交換がより意味深いものになる。



図 1 書店



図 2 フリーマーケット



図 3 自由本棚

4.贈与と地域性

地域性は歴史、地域独自の文化、人々の習慣やふるまい、都市的なものなど様々な要素が複合的に影響してつくられていく。様々な要素を贈与されて独特な地域性を持つ街として、北品川に注目した。北品川は、再開発エリアの都市的な要素と旧東海道と品川宿などの歴史的な要素、海と陸地の高低差のある地形的な要素がある。

4-1. 旧東海道における贈与性

旧東海道には、当時の幅員を残した路地文化が現存する。表通りは壁面線やスカイラインが揃えられるなど景観がとても綺麗に整備されている。一方、路地は商人の住宅の入り口などパーソナルで物や構造物の仕上げなど全体的にバラバラ



図 4 旧東海道の様子

している。表通りの統一性と路地の異質性の相互の性質が作用することで、宿場町の雰囲気を作られている。

また、この宿場町では、路地と表通りの出会い頭で立ち話をする人が多く見られることに気づいた。そこで表通りと路地の表裏一体の二面性がある場所がぶつかる出会い頭で、どのような関係性が新たに作られるかを分析する。

4-2. オモテとウラの原理

表通りをオモテ、路地をウラとし、オモテとウラそれぞれについて人と人、人と物などの関係性を考える。ふるまいにおいて、日常的かつ一般的な行為は見ている人に温もりを感じさせる。図5のように私的領域の一部を客観的に見ていることでこの現象が生じると考えられる。一方で、私的領域を出た瞬間、人は公的領域に合わせて私的領域を見せまいとする。オモテとウラの空間と人のふるまいについてどのような贈与性があるのだろうか。

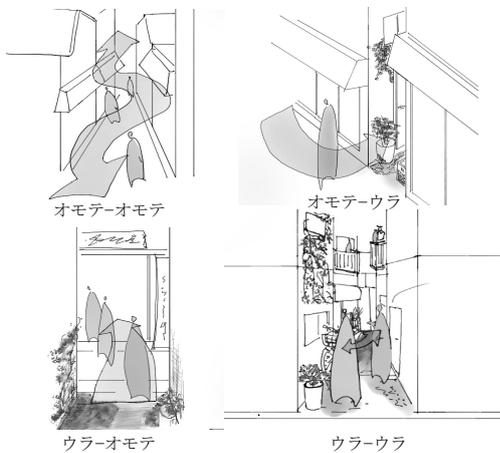


図5 オモテとウラの様子

4-3. ふるまいと贈与性

心理的距離が人のふるまいによってどう変わるのか、オモテ・ウラごとに、人が行為を行う場所の高さ関係や物による変化も踏まえ考察した。(図6)その結果、ふるまいの中には、オモテにおいても温もりや親近感によって心理的距離が実際の道を関係性を超えて近づくことがあることがわかった。例えば、ほうきで掃くという行為は、行為者のことを知らない見物人が行為者に温もりという感情を受け

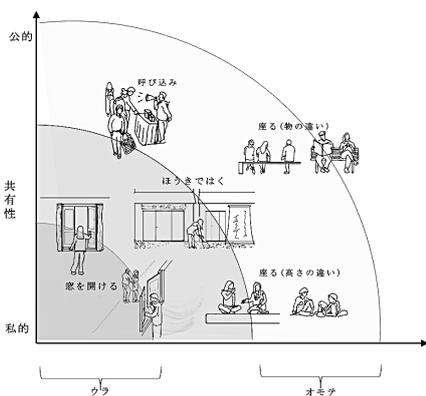


図6 具体的なふるまいと心理的距離の関係

取り、とても贈与性がある行為と言える。心理的距離がオモテとウラの関係性とふるまいが重なる事で地域固有の贈与につながると思われる。

5. 設計

5-1. 設計対象敷地

北品川は再開発エリアと歴史的な街で構成される。しかし、共通の地域性を持つはずのこの2つのエリアは開発が進むにつれ乖離している。再開発エリアと歴史的な東海道の地域性がつながるように、中間地域にあたる3箇所を対象地域とする。

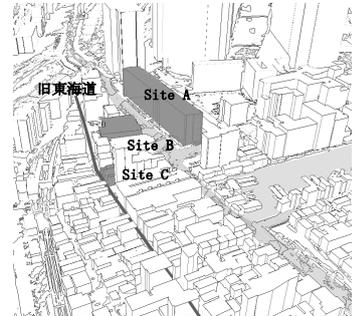


図7 対象敷地と旧東海道の関係性

5-2. 設計プログラム

都営アパートは内部空間に大きくリノベーションを施し、アパートの向かいに立つ中規模のビルには屋上に改修を行う。また旧東海道の道沿いに連続した3軒の商店については、3軒の間のすき間の道に軽度の改修を施す。3点の大・中・小のリノベーションにオモテとウラの原理を用いながら、より人のふるまいに注目した小さなスケールでの改修を行い、地域性の呼び起こしを図る。

① 道の構築

建物内にオモテとウラをつくるために旧東海道の道の構成を利用する。

② 心理的距離感

心理的距離感とふるまいの分析により得られた空間的イメージについて、個人の領域を900mmの基準寸法として考える。

③ 表長屋グリッドの使用

江戸時代に表通りに面して道に立ち並んでいた商人の家を表長屋という。伝統的な表長屋の間口2間、奥行4間を基準寸法として利用し、壁などを配置していく。

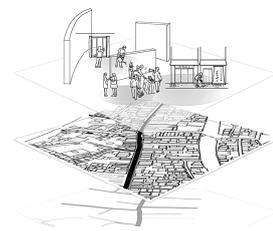


図8 手法ダイアグラム

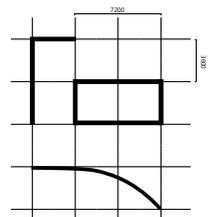


図9 表長屋グリッド

このように、様々なスケールでオモテとウラの原理が展開でき、街に贈与の連鎖が起きることで地域性をつないでいくことができることを期待している。

主要参考文献

1. マンセル・モース. 贈与論. 岩波文庫, 2014年.
2. 中沢新一. 『純粹な自然の贈与』. 講談社, 1996年.